

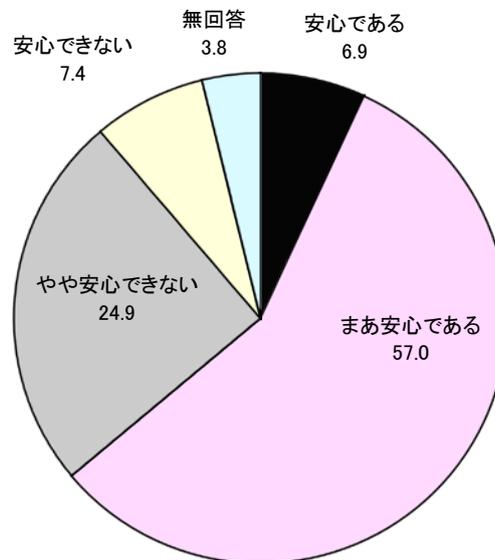
14. 食品の安全確保対策

(1) 流通食品の安全

問 38 あなたはふだん流通している食品が安心できると感じますか。次のうちから近いものを1つだけ選んでください。

流通食品の安全に対する安心度は6割

流通食品の安全について、「安心度」(「安心である」「まあ安心である」)は63.9%である。それに対し、「安心できない」(「やや安心できない」「安心できない」)割合は32.3%となっている。



(単位: %)

<属性による比較>

【生活圏別】

安心度は備北地方生活圏が67.6%と、広島地方生活圏(64.5%)、備後地方生活圏(62.2%)と比べてやや高い。

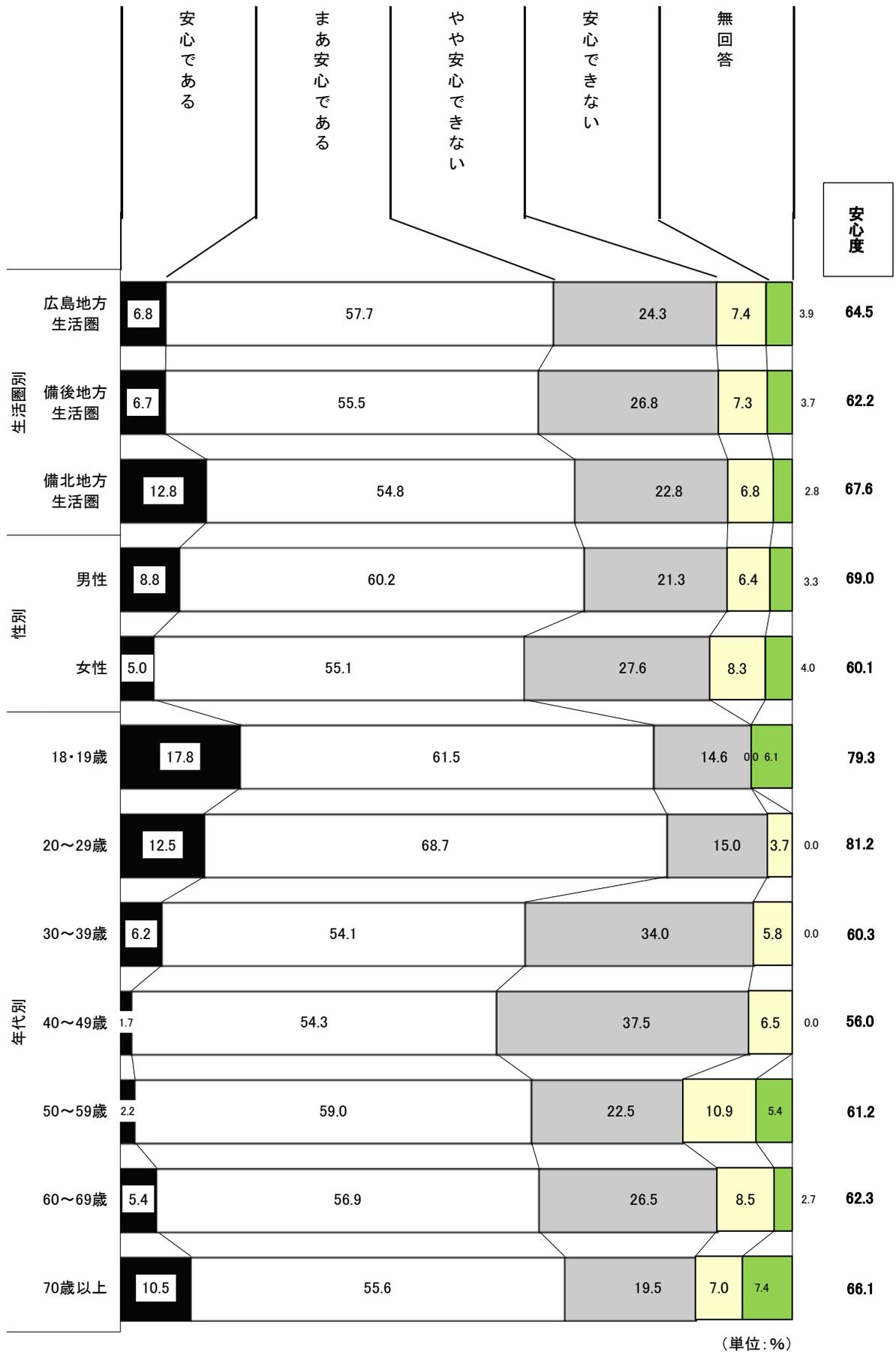
【性別】

男性の安心度は69.0%と女性(60.1%)と比べて8.9%高い。

【年代別】

20歳代以下の安心度は8割前後と高い一方で、30歳代以降は6割程度となっている。中でも40歳代は56.0%と最も低くなっている。

流通食品の安全(生活圏, 性, 年代別)

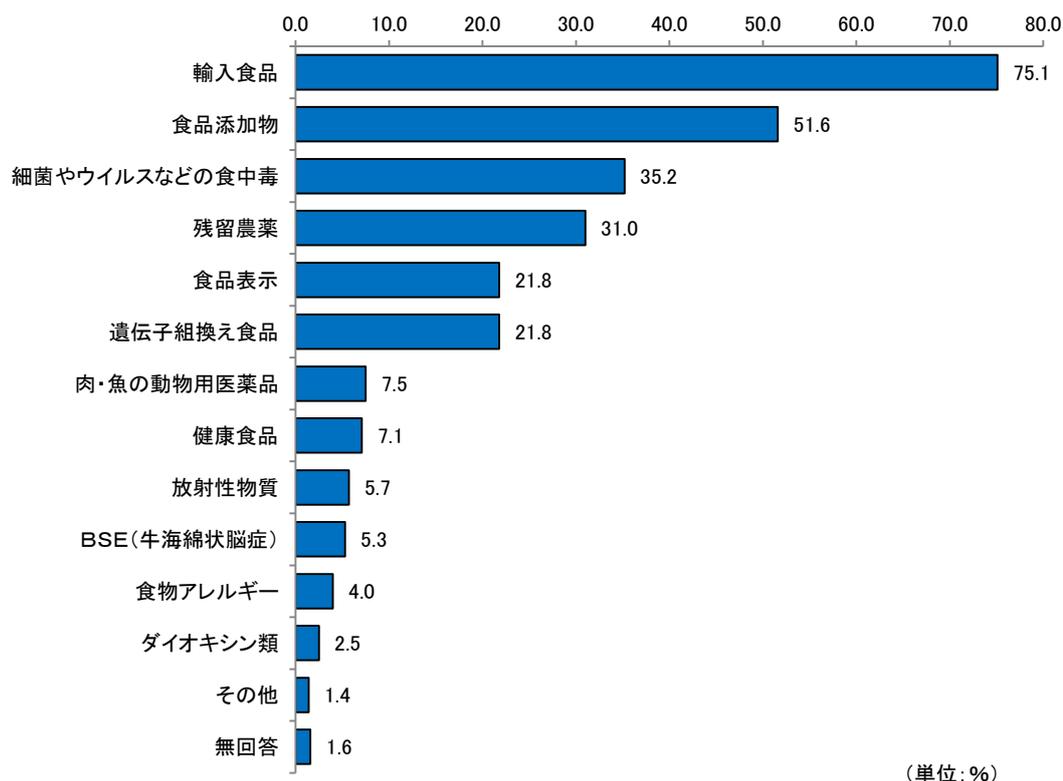


(2) 流通食品に「安心できない」と感じること

問 39 (安心できないと答えた方)あなたが食品に「安心できない」と感じることは何ですか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。(M. A.)

流通食品が安心できない点は「輸入食品」「食品添加物」

流通食品に「安心できない」と感じることは、「輸入食品」が 75.1%と最も多く、次いで「食品添加物」(51.6%)、「細菌やウイルスなどの食中毒」(35.2%)となっている。



<属性による比較>

【生活圏別】

「輸入食品」は備北地方生活圏が 83.8%と広島地方生活圏(73.6%)と比べて 10.2 ポイント高く、「細菌やウイルスなどの食中毒」は広島地方生活圏が 36.0%と備北地方生活圏(28.4%)と比べて 7.6 ポイント高い。「遺伝子組換え食品」は広島地方生活圏が 23.4%と備北地方生活圏(16.2%)と比べて 7.2 ポイント高い。

【性別】

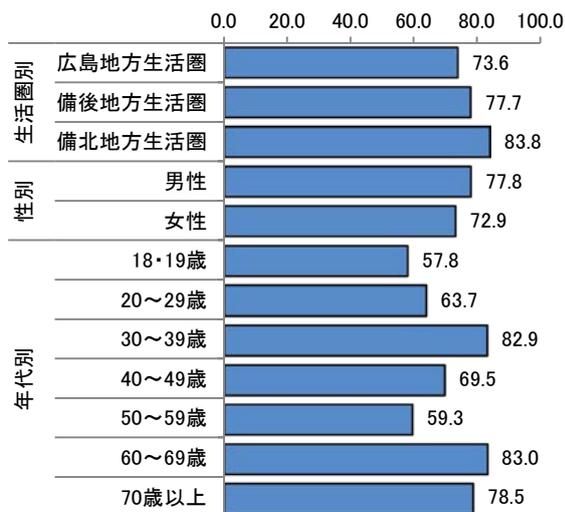
「食品表示」は男性(27.3%)が女性(18.7%)と比べて 8.6 ポイント高く、「食品添加物」は女性(56.5%)が男性(43.5%)と比べて 13.0 ポイント高い。

【年代別】

「輸入食品」は 30 歳代と 60 歳代以上が 8 割程度、「食品表示」は 20 歳代と 40 歳代で 3 割と他の年代と比べて高い。「細菌やウイルスなどの食中毒」は若年層になるほど「安心できない」割合が高い。「食品添加物」は 60 歳代が 60.7%と他の年代と比べて最も高い。

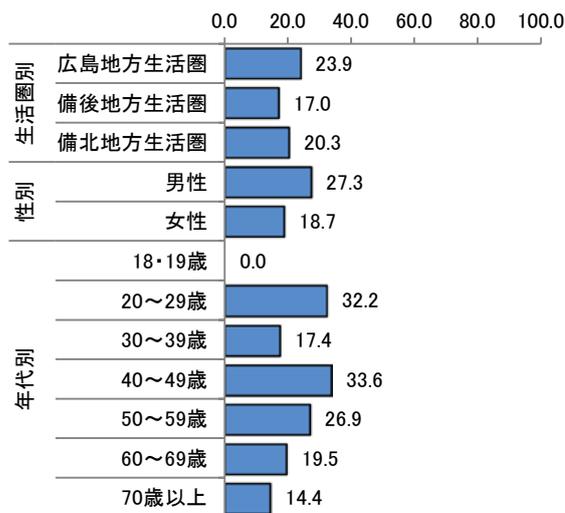
流通食品に「安心できない」と感じること(生活圏, 性, 年代別)

輸入食品



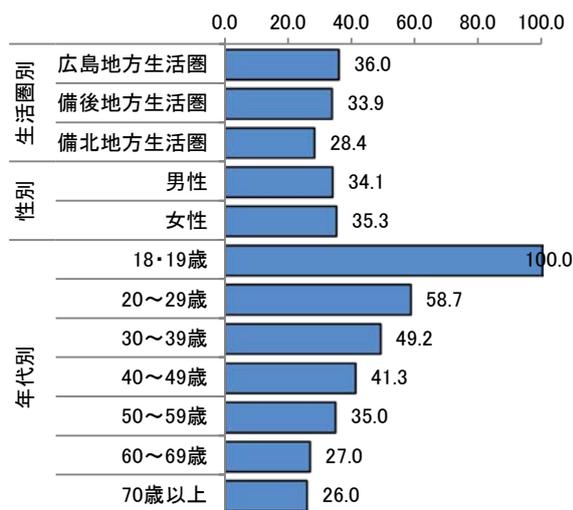
(単位: %)

食品表示



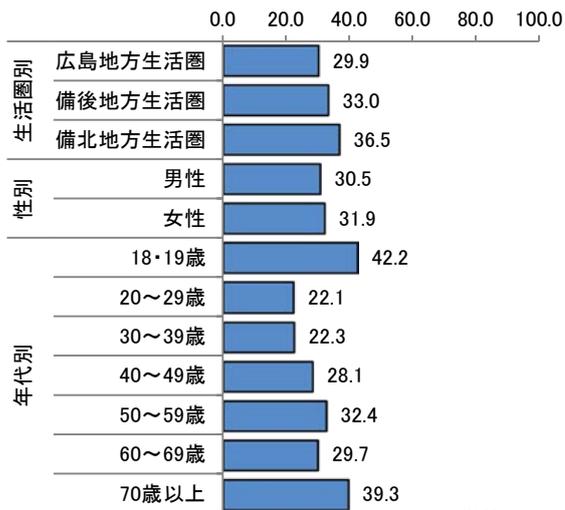
(単位: %)

細菌やウイルスなどの食中毒



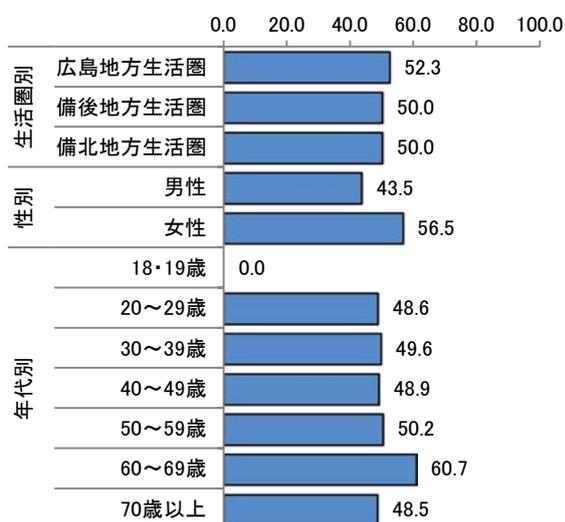
(単位: %)

残留農薬



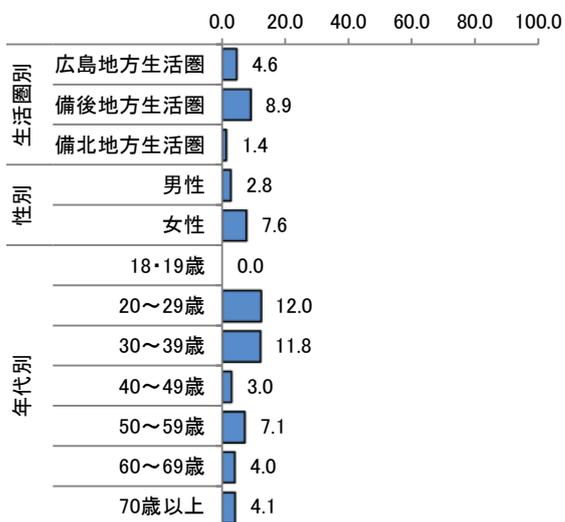
(単位: %)

食品添加物



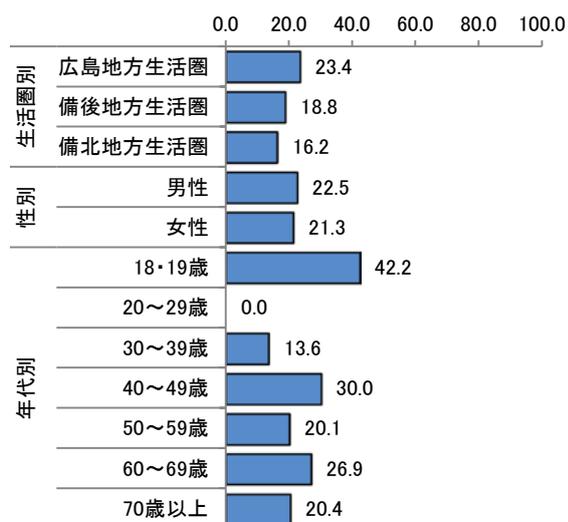
(単位: %)

放射性物質



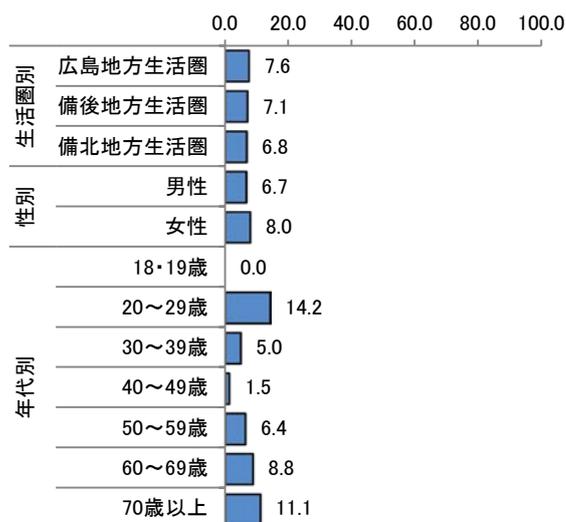
(単位: %)

遺伝子組換え食品



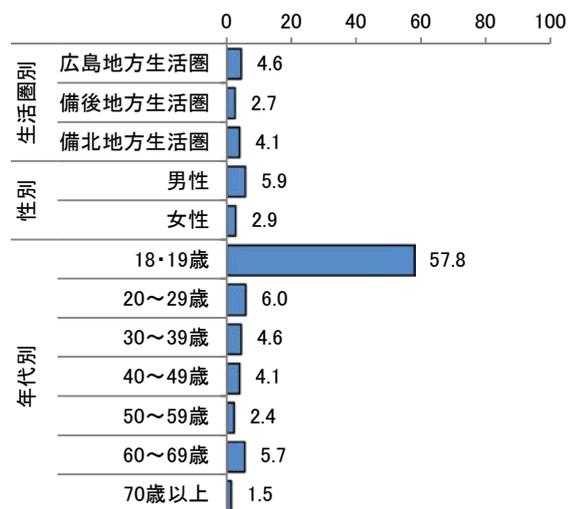
(単位: %)

肉・魚の動物用医薬品



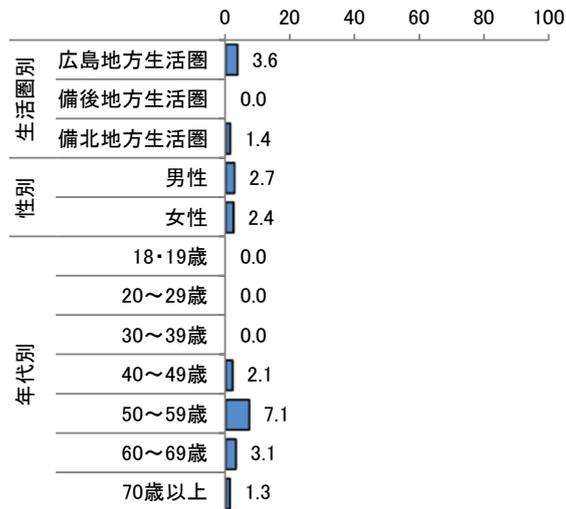
(単位: %)

食物アレルギー



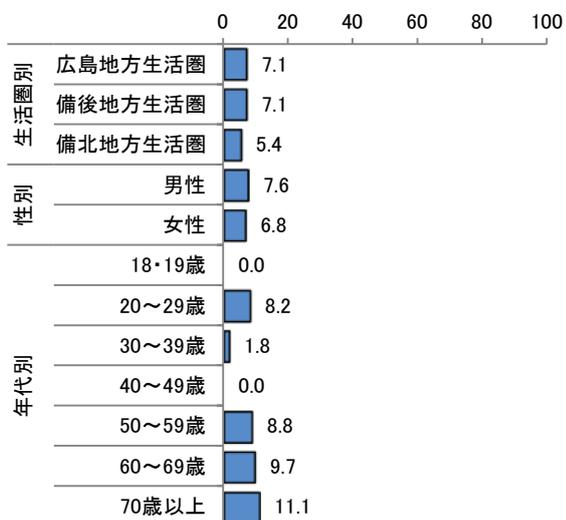
(単位: %)

ダイオキシン類



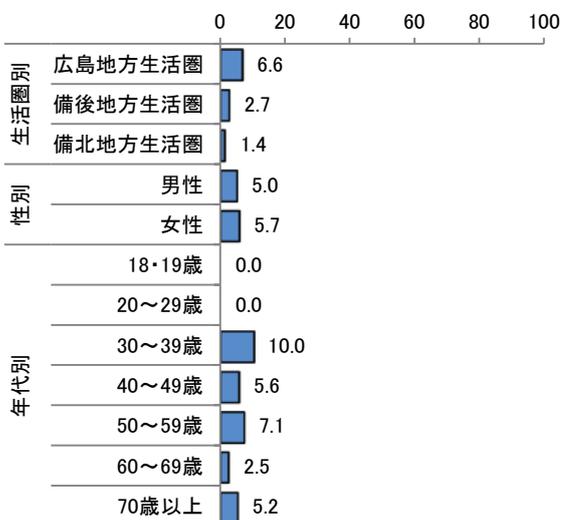
(単位: %)

健康食品



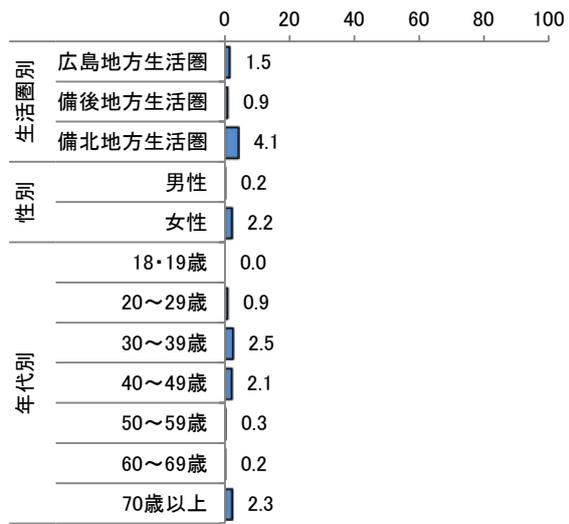
(単位: %)

BSE(牛海綿状脳症)



(単位: %)

その他



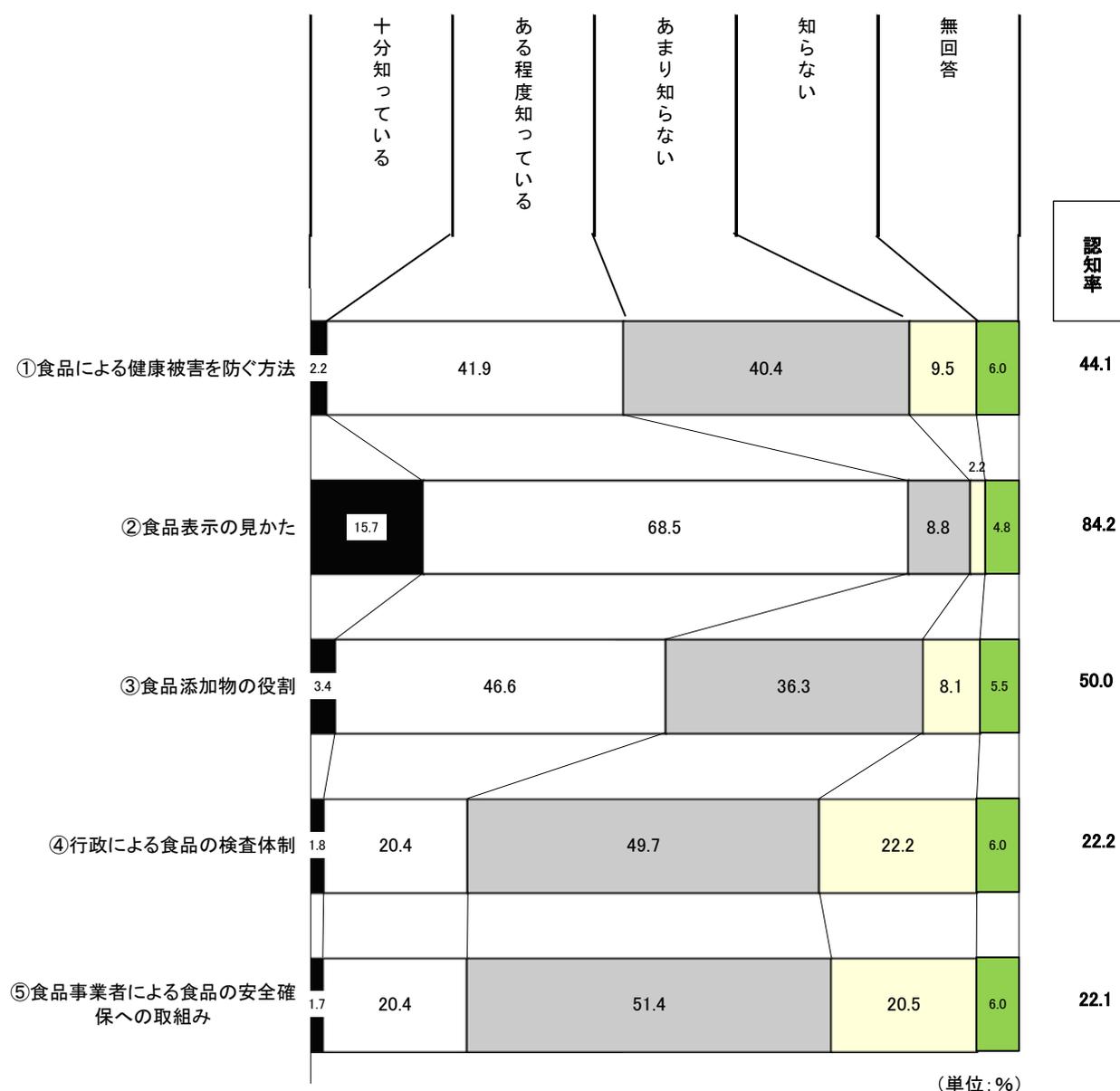
(単位: %)

(3) 食品に関する知識

問 40 あなたは、次のことについてどの程度知識があると思いますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつ選んで○をしてください。

「食品表示の見かた」の認知率は8割、
「食品添加物の役割」の認知率は5割

食品に関する知識について、認知率（「十分知っている」「ある程度知っている」）が高いのは「②食品表示の見かた」（84.2%）、「③食品添加物の役割」（50.0%）、「食品による健康被害を防ぐ方法」（44.1%）となっている。



＜属性による比較＞

【生活圏別】

「①食品による健康被害を防ぐ方法」の認知率は広島地方生活圏が 46.4%と最も高く、備後地方生活圏(39.3%)、備北地方生活圏(37.2%)と比べて7ポイント以上高い。

【性別】

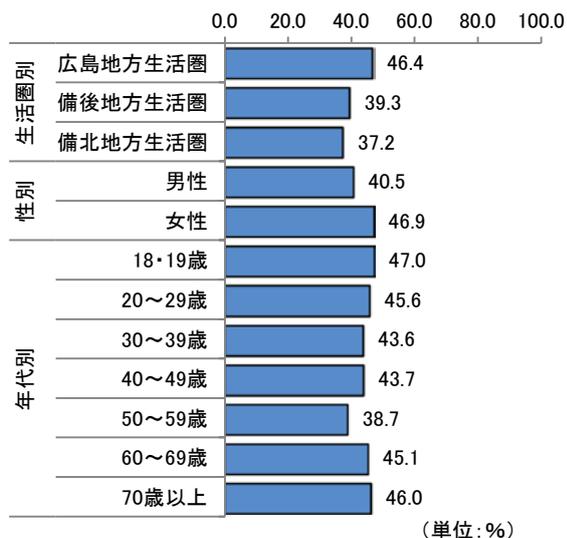
男性は「④行政による食品の検査体制」(26.1%)の認知率が女性(18.5%)と比べて 7.6 ポイント、「⑤食品事業者による食品の安全確保への取組み」(26.3%)の認知率が女性(18.4%)と比べて 7.9 ポイント高い。女性は「①食品による健康被害を防ぐ方法」(46.9%)の認知率が男性(40.5%)と比べて6.4ポイント、「②食品表示の見かた」(88.0%)の認知率は男性(79.4%)と比べて 8.6 ポイント、「③食品添加物の役割」(55.3%)の認知率は男性(43.7%)と比べて 11.6 ポイント高い。

【年代別】

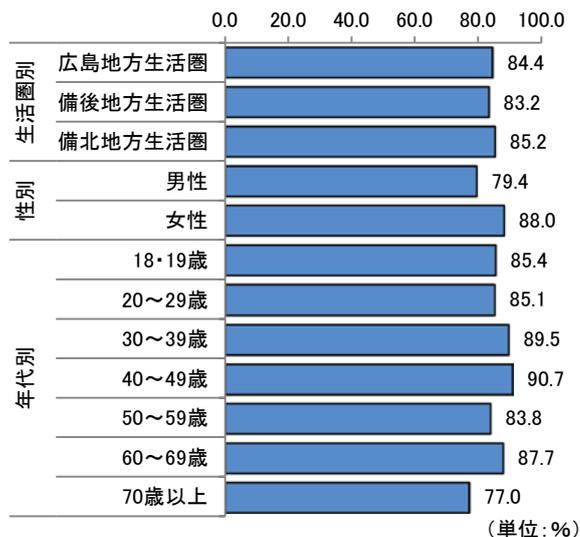
「①食品による健康被害を防ぐ方法」の認知率は 50 歳代を除くすべての層で4割以上となっている。「③食品添加物の役割」の認知率は 20 歳代以上で半数程度に対し、18・19 歳は 38.5%と最も低い。「④行政による食品の検査体制」、「⑤食品事業者による食品の安全確保への取組み」は 18・19 歳が半数程度と高いのに対し、20 歳代以降は1～2割と低い。

食品に関する知識 認知率(生活圏, 性, 年代別)

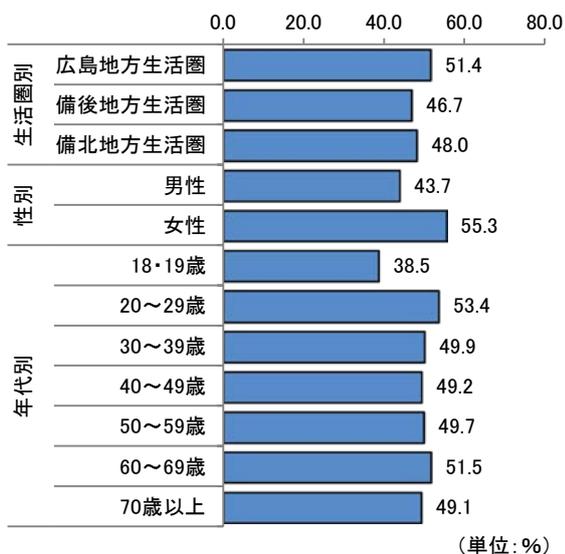
①食品による健康被害を防ぐ方法



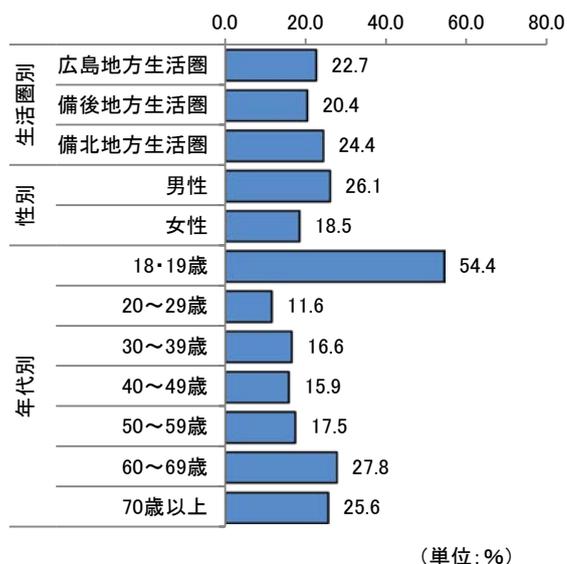
②食品表示の見かた



③食品添加物の役割



④行政による食品の検査体制



⑤食品事業者による食品の安全確保への取組み

